

公表

## 事業所における自己評価結果【保育所等訪問支援】

事業所名	聖隷こども発達支援センターからみあ		公表日	2026年3月26日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3	0		毎年訪問支援用の療育グッズを購入し、必要に応じて訪問時に持参し、訪問先の先生に紹介している。保護者様との共有に関しては十分とは言えない為、意識して紹介をしていく必要がある。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	1	育児休暇等で保育所の職員が少ないことは理解できているが、希望者に対しての職員数は少ないと感じている。	今年度は複数名が産休・育休取得により、対応できる職員が少なく、例年よりも待機児童数が増加した。終了児の発生に伴い順次新規受け入れを進めてきたものの、結果として利用希望者を長期間待機させてしまう状況であった。現在、訪問支援員の育成を急務と捉え、組織的な取り組みを継続しているが、待機解消に直結する具体的な成果までは至らなかった。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	0	関連している職員で話し合いが行われている。	会議等の機会も活用しながら、必要に応じて話し合いを実施し、取り組みに繋げている。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0		毎年保護者様からいただいたご意見をもとに、次年度の取り組みに繋げている。
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	0		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	今年度は研修を実施していただき勉強になった。	今年度は法人内の他事業所と共に、訪問支援員対象の研修会を年間を通して実施した。ガイドライン等の制度的な勉強会や法人内こども園を活用した実習等、訪問支援に直結する内容での研修を行った。
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3	0		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0		カンファレンスには、児発管や訪問担当だけでなく、管理者や他訪問支援員も同席し、多角的な視点で内容の検討を行っている。
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3	0		カンファレンスの前月には訪問支援計画作成会議を実施している。そこで訪問先の意見を確認し、新しい支援計画の内容に反映させている。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0		
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0		訪問支援に特化したアセスメントツールはない。法人内の他事業所と共通のアセスメントの書式を使用している。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0		ケースによっては訪問前に方向性の確認等の共有を実施しているが、全ケースの共有までは難しい現状に留まっている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	0	クラスの先生や必要に応じて児発管や所長に報告をしている。 その日ではないが、月に一度の保育所会議やそれぞれのクラス担任と現状での気づいた点や様子について報告をし、情報を共有している。	訪問後や会議等で、訪問の様子について共有を実施している。必要に応じて、クラス担任や相談支援事業所とも内容を共有し、必要な対応を検討している。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	3	0		訪問開始時には訪問先のアセスメントを実施し、訪問先の理念等を考慮した上での支援を実施できるように心掛けている。しかし、児の状態と訪問先の対応がすぐに効果的な支援に繋がりにくい場合もあり、児の特性と訪問先の理念との兼ね合いについては模索をしているケースもある。

適切な支援の提供	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	3	0		書面による記録を基本とし、各訪問支援員が記録の重要箇所をカラーリングする等の工夫を施し、情報の整理・共有の効率化を図っている。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0		サービス担当者会議には訪問担当のみならず、児発管や児童発達支援のクラス担任等も同席し、複数名での情報共有の場としている。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0		
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	0	園の先生から子どもの表れや課題を聞き取り、情報共有を行っている。	就学サポートノートも活用しながら、園での様子を学校職員と共有し、お子様の特性理解に繋がるように努めている。必要に応じてサービス担当者会議等も実施した。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2	1	外部機関に自ら聞くことは少ない。内部研修は行われている。	今年度は法人内の保育所等訪問支援員を対象とした合同研修を年数回開催した。その際、大学講師を兼務する職員をアドバイザーとして招き、専門的な立場からの講話を通じて、訪問支援における実践的な指導と助言を受けた。児発管の初任者研修や虐待防止権利擁護研修等への外部研修にも参加をした。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	1		センターが主催となって自立支援協議会を開催・参加をしている。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0	訪問支援の後には必ず報告を行っており、園での課題はそこで共有している。	訪問終了後から次回の訪問開始までに報告を実施し、お子様の状況等を共有している。またそれ以外にも送迎時等にも声をかけ、保護者様の希望があった際には面談等にも応じている。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1	児発の方では行っているが、保育所として行っているかは不明。	児童発達支援と対象児が重なっているため、児童発達支援と併せて事業所単位で実施している。保育所等訪問支援に特化した実施は行っていない。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0		変更事項については、新年度説明会にて保護者様に直接説明をし、同意をいただいている。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	3	0		昨年度発行された保育所等訪問支援ガイドラインの内容に合わせて、パンフレットの内容を修正し、年度当初や訪問支援開始の際にはパンフレットを持参し説明を行っている。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0		支援計画の見直しの時期には、必ずお子様と保護者様の意向を確認した上で、訪問支援計画に内容を反映させている。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	3	0		
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3	0		
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	0		
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0		保護者様から相談があった際には面談等の機会を設け、迅速に相談に応じている。直ぐに返事が難しい内容については、いつまでに返答できるか期限をお伝えし、対応を実施している。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	0		かみあとしての内容は発信しているが、保育所等訪問支援に特化した内容での発信は実施できていない。保護者が訪問支援の情報発信についてどのようなことを知りたいのかニーズを探していく所から始める必要がある。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2	1	絵本コーナーが主に報告場所となっており、プライバシー保護としては弱いと感じる。	面談室の確保が可能場合は、なるべく個室を利用して報告が実施出来るように改善している。面談室の確保が難しい場合は、保護者様の許可をいただいた上で絵本コーナー等でのオープンスペースで報告になっているが、個人情報の内容に関する話題には留意している。
36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0			

訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3	0		訪問先からの相談には出来る限り応じているが、訪問先が求めている助言までは難しい場合があった。今後は園や学校ですぐに対応可能な具体的な助言が出来るよう、訪問支援員の質の向上にも努めていきたい。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	3	0		訪問時には必ず情報共有の時間を設けているが、小学校の通常級在籍等のケースでは、先生の時間の確保が難しく、休み時間等に実施する場合がほとんどで、じっくりと時間を確保しての面談が難しい場合が多かった。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	3	0	毎回の報告時には保護者に話をしている。	保護者報告の内容で、次回の訪問までに園との共有が必要な場合は、保護者の許可をいただいた上で、電話連絡等を通して園とも内容を共有している。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0		
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	3	0		
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0		児童発達支援と重なっている内容については、児童発達支援と併せて周知しているが、保育所等訪問支援に特化したマニュアルまでは周知は出来ていない。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0		訪問先への送付ミス等の事故が起きた際には、原因を振り返り、再発防止にむけての内容を検討・改善を行っている。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0		児童発達支援と重なっている内容については、児童発達支援と併せて実施している。訪問支援員対象の研修の中でも園対応等も含めた悩みを相談する機会を設けることで、適切な支援に繋げている。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	0		